

# 後期基本計画

## 総論

赤字：前期基本計画からの変更箇所

## 第1章 丹波篠山市を取り巻く環境の変化

---

前期基本計画期間中（令和3～7年度）における丹波篠山市を取り巻く主な社会潮流の変化と、後期基本計画期間を迎えるにあたっての課題を示し、後期基本計画策定の前提とします。

### 1. 人口減少社会の加速

我が国の人口は、平成20（2008）年をピークに減少局面に入っています。国立社会保障・人口問題研究所の推計（令和5年8月）によると、2020年代はじめは全国で毎年60万人程度の減少ですが、それが2050年代頃には毎年90万人程度の減少スピードにまで加速するとされ、2070年には、全国で9,615万人程度に減少するとされています。また、アンコンシャス・バイアス等により、地方から都市圏、とりわけ東京圏への転入超過が続いており、進学や就職を契機として若年層が転入する傾向があるとともに、男性に比べると女性の方が地方に戻らないといわれています。

丹波篠山市においては、全国より早く、平成13（2001）年頃から本格的な人口減少の時期を迎えており、高齢者人口の増加傾向も令和元年度以降、概ね横ばい状態になっております。ただし、年少人口・生産年齢人口が低下することで、高齢化率は令和4（2022）年度末で35パーセントを超えており、生産年齢人口の減少は、社会構造や市の経済・財政状況、社会保障などに大きな影響が及ぶことが予想されます。

### 2. 物価の高騰と賃金

我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行されて以降、徐々に回復するとともに、人手不足の中、完全失業率が低位で推移しており、賃上げ率が高水準となっています。一方で、エネルギー等の高騰に伴う物価上昇に所得の伸びが追いついておらず、その回復力は限定的となっており、持続的な賃上げや活発な投資が求められています。また、人口減少の進む地方においては、地域の特性を活かした持続的な競争力を備えた経済を構築する必要があります。

こうしたなか、丹波篠山市では、2025年の日本国際博覧会（大阪・関西万博）を契機として、「丹波篠山国際博<sup>※</sup>」を開催しました。丹波篠山の食や文化芸術、自然環境、景観など、丹波篠山の魅力を発信し、国内のみならずインバウンド需要を拡大するとともに市民の誇りの醸成も図ってきました。国内およびインバウンドの流れを絶やすことなく、丹波篠山の魅力を構成する様々な資源を磨き上げ、労働生産性の高い「稼ぐ」力を持つ地域経済を確立していく必要があります。

### 3. 生活環境の変化

地域における生活基盤には、多様な主体によって提供される買物や医療、交通、子育て支援など、日々の暮らしに欠かせない機能が存在していますが、人口減少等の影響を受け、その存在が危ぶまれる機能が顕在化してきています。人口減少を受け止めつつ、誰もが安心して生活できる適応策を講じ、必要な生活機能を持続的に確保できる体制、サービスを整える必要があります。そして、民間企業やNPO、郵便局、さらにはローカル・ゼブラ企業<sup>※</sup>といった多様な主体が連携しあい、役割を分担し

ながら柔軟に支え合うことが求められます。

丹波篠山市においては、市民、利用者の医療・介護サービスが途切れることのないよう、早期に丹波篠山市民誰もが安心できる地域医療体制を維持・確保に向けた検討とともに、複雑化・複合化した支援ニーズに対応するための包括的な福祉支援体制の構築が必要です。また、まちづくり協議会については、市内全ての地区で設立され、閉校となった小学校の活用や先進的な獣害対策、移住・定住促進の取り組みなど、特色ある取り組みが展開されてきた一方で、少子高齢化の進展や定年延長の影響等による担い手の課題があります。こうした担い手の育成等とともに、一定の生活機能を備えた地区の拠点を軸とした持続可能な生活について、地区住民を中心とした検討を進めていく必要があります。

#### 4. 地方への注目の高まり

強い経済基盤と豊かな生活基盤を構築した上で、若者や女性にも選ばれる地方（新しい地方・楽しい地方）、高齢者も含め誰もが安心して暮らし続けることができ、一人一人が幸せを実現できる地方が求められています。また、性別や世代、立場を越えた関係者が連携し、地域の人々を巻き込み人と組織のつながりを強化することで、地域に好循環を生むことが求められています。

丹波篠山市は、京阪神から比較的近い距離にありながら、美しいまちなみや豊かな自然、文化など、独自の魅力が人々を惹きつけており、丹波篠山ならではの暮らしを求め、“選ばれるまち”になってきています。二地域居住や関係人口など居住地を問わず、丹波篠山市に関心のある人たちや組織が活動しやすい環境を整備することによって、さらに若者や女性に“選ばれるまち”になる必要があります。

#### 5. 美しい農村・地域ブランドを未来へ

世界では気候変動による干ばつや豪雨、異常高温が頻発し、農業生産への深刻な影響が広がっています。さらに、国際情勢の不安定化により穀物や肥料の供給網が揺らぎ、食料安全保障は環境や安全保障と密接に結びついた重要課題となっています。

国内においても、農業の担い手不足は深刻さを増しており、基幹的農業従事者は2000年（平成12年）の約240万人から、2024年（令和6年）には約111万人へと半減しました。加えて、国内の農地面積は2030年（令和12年）には2020年（令和2年）比で35%減少するとの推計もあり、国産農産物による食料供給力の低下が懸念されています。

丹波篠山市における黒大豆・枝豆や山の芋などの伝統的な特産農産物については、まちの誇りであり、地域ブランドとしての価値がますます高まってきています。しかしながら、丹波篠山市においても、農業の担い手不足、遊休地の増加に課題があります。2021年には「丹波篠山の黒大豆栽培」が日本農業遺産<sup>※</sup>に認定され、地域に根差した農業の知恵と実践が高く評価されたこともあり、先人の努力により培ってきた農村を未来へ引き継ぐことが求められています。

#### 6. 予断を許さない財政状況、厳しさの増す財政状況

人口減少下にある我が国において、限られた資源からより一層高い政策効果を生み出し、全世代型社会保障の構築や地方行財政基盤の強化等、経済・財政一体改革の取り組みを進める必要があります。

また、地方創生を進めていく上で、医療や交通はもとより道路や橋、公共施設といったインフラを管理・対策していくことが重要になっています。公共施設等については、長期的な視点を持って、最適な配置を実現することが必要になっています。

丹波篠山市においても、物価高騰や高齢化による扶助費の増加、地域医療の継続、インフラ施設の老朽化などの課題が生じています。平成 20 年に策定した篠山再生計画の着実な実行により、一旦の収支均衡を果たしましたが、今後も財政負担の軽減・平準化に取り組む必要があります。

## 第2章 基本計画の概要

### 1. 基本計画の位置づけ

基本計画は、基本構想において設定した丹波篠山市の将来像『丹波篠山』だからこそ実現できるあなたの夢・安心・未来の実現に向けて、基本的施策をより一層明確にし、実現の手段となる施策を分野別に体系化し、具体的な内容を示すものです。

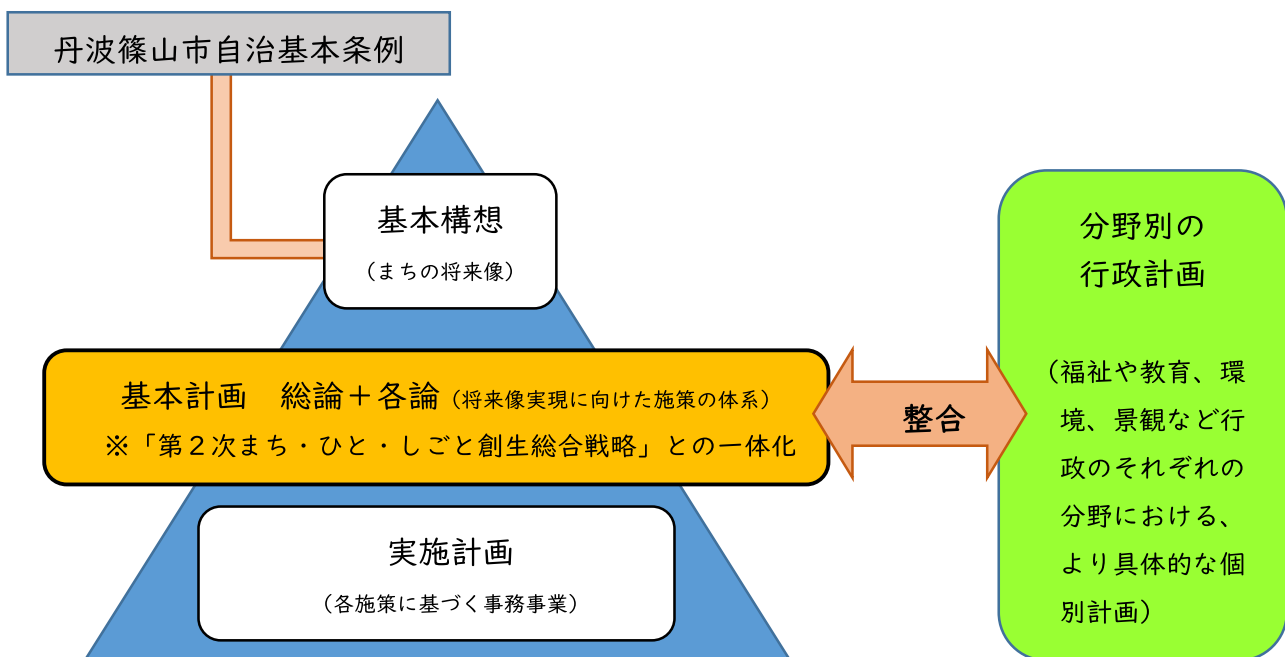
基本構想の期間を前期5年、後期5年に区分して、令和8年度～令和12年度の5カ年度を後期基本計画期間とします。

### 2. まち・ひと・しごと創生総合戦略との一体化

丹波篠山市では人口減少に対応し、将来にわたり活力ある地域を維持するため、地方創生に関する施策の方向等を示すものとして、平成27年度から令和2年度までを期間とする「まち・ひと・しごと創生総合戦略（以下、「総合戦略」という。）を策定し、取り組みを進めてきました。本総合計画では、地方創生の趣旨である、人口減少社会におけるまちの活力の維持・向上、関係人口の創出などの対策を含んだ取り組みを進めることなどの方向性を示すことから、第2次総合戦略を本第3次総合計画に含み、一体的な運用を図ります。

丹波篠山市総合計画・総合戦略の期間																															
平成27年		平成28年		平成29年		平成30年		令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		令和8年度		令和9年度		令和10年		令和11年		令和12年	
総合計画	第2次 総合計画基本構想								第3次 総合計画基本構想																						
	前期基本計画	後期基本計画 (平成28年度～令和2年度)							前期基本計画 (令和3年度～令和7年度)				後期基本計画 (令和8年度～令和12年度)																		
総合戦略	現総合戦略 (平成27年度～令和元年度)								1年延長	【次期総合戦略を包含】				【次々期総合戦略を包含】																	

【総合計画の関連図】



### 3. 基本計画の推進に向けて

大きく変動する社会動向の中で、これからも丹波篠山市を維持、発展させていくためには、今を生きる私たちが、先人から受け継がれた地域の良さを、原点に立ち返って再認識して、共通認識を持つとともに、新しい魅力を発見・発信し、「市民が住み続けたいと思うまち」さらに「子育て世代や様々な暮らし方を求める若者・女性に選ばれるまち（楽しいまち）」であることが求められます。

ここでは、(先述の)“丹波篠山市を取り巻く環境の変化”で示した課題を踏まえ、丹波篠山市として、大切にしていこう考え方を示します。

#### ①持続可能なまちづくりに向けて取り組む

丹波篠山市では、これまで人口減少が進む中、自然環境の保全と再生、農業の振興、伝統文化の継承、コミュニティの維持や人材育成・活用、防災対策など、持続的なまちづくりに市民とともに取り組んできました。

これは、平成27年に国連サミットで採択された「誰一人取り残さない」持続可能で、多様性と包摂性のある社会の実現のため、令和12年を期限とする17の国際目標(SDGs)と合致するものであり、地方の持続可能な開発、すなわち「国民一人一人が夢や希望を持ち、潤いのある豊かな生活を安心して営める地域社会を形成すること」を目標とする地方創生にも大いに資するものと考えられています。

第3次総合計画期間においても、これまでの丹波篠山市の取り組みを継続し、「市民が安心して暮らせる環境づくり」を土台として、その上で「一人一人が豊かに暮らせる環境づくり」を、一体的に取り組むこととし、関係人口の創出や官民連携の推進、デジタル技術の活用について、これまで以上に留意しつつ、様々な分野の取り組みを積極的に展開していきます。



※巻末に個々の目標の解説を添付しています。

## ②丹波篠山の資源を活かして取り組む

丹波篠山市には、おいしい農産物や歴史的なまちなみ、伝統的行事や産業、日本の原風景といわれる自然景観など、先人によって大切に守られてきた地域資源がたくさんあります。その中には、すでに「丹波篠山ブランド」と内外から認められた丹波篠山黒豆等の伝統的な特産物や重要伝統的建造物群保存地区などの地域資源もありますが、ここではそればかりでなく、市民の暮らしに密接に関わる福祉や健康、教育、さらには人そのものや資源を育ててきた“暮らし”に至るまでを地域の大切な

資源と位置付け、まち全体の良好なイメージとして、その価値を高めます。

地域ブランドの確立は、地域の特色ある特産品やサービスなどを、その地域のイメージと結び付けることで、それぞれの価値を一体的に高め、好循環を生み出すことです。“丹波篠山の人たちの暮らしそのもの”を丹波篠山の地域イメージとして、上質な商品やサービスにそのイメージを付加することで、丹波篠山の地域資源の価値向上を図ります。

また、丹波篠山国際博による国内およびインバウンドの流れを絶やさぬよう丹波篠山の魅力を構成する様々な資源を磨き上げるとともに、従来にはなかった形で異なる分野の要素と組み合わせるなどの高付加価値化、いわゆる「施策の新結合」を図り、労働生産性の高い「稼ぐ」力を持つ地域経済の確立を目指します。こうしたなかで、地域資源の魅力を市民が再認識し、誇りや愛着を持って（シビックプライド\*の醸成）暮らし続けられるまちづくりを実現し、美しい農村を未来へ継承していきます。

## ③それぞれが役割を担う、協働して取り組む

基本構想の第1章で述べたように、丹波篠山市では、市民と市の参画と協働の手法を明らかにすることで「誰もが住みやすく愛される丹波篠山」を実現するためのしくみを整えるため自治基本条例を定めています。丹波篠山市がめざす共生のまちづくりは、行政だけでも市民のみなさんだけでもなしえません。それぞれの立場に応じた役割を担い行動する、また、お互いに協働して行動することなど、様々な主体が知恵を出し合い、力を合わせることで実現をめざします。

このことから、施策の体系図に掲げる小目標ごとに、めざす将来のために行う主要な取り組みの概要の下に、「市民・事業者の役割」と「行政の役割」だけでなく「市民・事業者と行政の協働の役割」を例示します。

## ④新たなライフスタイル、環境の変化に適応する

新型コロナウイルス感染症の影響により、社会情勢が大きく変わりましたが、感染防止と経済社会活動の両立が図られ、経済活動や人々の暮らしは正常化しつつあります。テレワーク\*やオンラインでの面会、ウェブ会議といったデジタル技術が普及するとともに、AIやドローンなどの技術の発展により、人々の生活の利便性が高まっています。市としても、こうした技術を活かし、市民生活の福祉向上につなげていくとともに、地方との関わりや暮らしを希望する人々が、不自由なく働き、安心して生活することのできるウェルビーイングな社会を目指します。

また、国際情勢の変化による輸入原料やエネルギー等の高騰に伴う物価高騰が続いており、丹波篠山市の地域経済を支える中小企業・小規模事業者等に影響を与えています。長期的な予測が難しい状況ですが、めまぐるしく変動する社会情勢に適応していきます。

さらに、高齢化による扶助費の伸びが見込まれること、地域医療を継続して確保すること、公

共施設などのインフラ施設の老朽化が進んでいる等の新しい課題が生じております。篠山再生計画の基本的な考え方を引き継ぎつつ、魅力向上に必要な事業を実施できるようにすることで市の発展につなげることを目的とした「丹波篠山市財政持続発展計画」を推進するとともに、「公共施設等総合管理計画」と連携することで、長期的な施設の在り方を示すことで、今後も財政の健全化に取り組んでいきます。

持続可能な地域の実現をめざして基本構想に掲げた将来像と基本方針を踏まえて、基本計画では基本目標（施策の大綱）・中・小目標を体系的に示し、小目標ごとにめざす姿の実現を図りますが、細かい分野に捉われず大きな方針として、前期基本計画中ではとりわけ重点的に取り組む4本の柱をシンボルプロジェクトと位置付けて取り組んできました。後期基本計画においても、引き続きこの4本を柱に、基本的な考え方を踏襲して、取り組んでいきます。

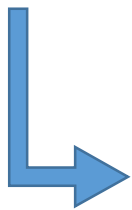
それぞれのシンボルプロジェクトは、今後、丹波篠山市が持続可能なまちをめざすうえで重要な取り組みとなります。以下、それぞれのシンボルプロジェクトの関連性をお伝えします。

### 基本構想における将来像

## 「丹波篠山」だからこそ実現できるあなたの夢・安心・未来

### 基本方針

- ① 多様で複層的なコミュニティづくり
- ② チャレンジと支え合いの土壌づくり
- ③ 環境との共生と経済が循環する暮らしづくり



①

「地域資源を活かした循環型経済をつくる」プロジェクト

②

「美しい農村のまちづくり人財をはぐくむ」プロジェクト

③

「美しい農村を支える基盤をつくる」プロジェクト

④

「美しい農村としての暮らしを守る」プロジェクト

丹波篠山市における良好な自然環境、特産物、歴史資産、景観等は、さまざまな人々を丹波篠山に引き付ける求心力のある資源です。これからも多くの人々を魅了し続けるよう自然環境等を守り、それぞれの資源の価値を高めていくことが大切です。こうしたなかで、地域の資源を活用した事業が生まれ、資源の循環のみならず、新たに人を引き付ける循環が生まれることが期待できます。（シンボル①）。

こうしたなかで、まずは観光客の方に来ていただき、長期的な滞在によって、丹波篠山の魅力を十分に感じていただく必要があります。こうしてファンが増え、地域経済が動いていくと、丹波篠山で起業や継業をしようとする人、夢をかなえようとする人たちが出てきます。こうした人たちが、丹波篠山で事業を開始できるよう実践的な学びの機会等を提供することが必要です。

このように、定着あるいは定住する人たちが出てくると、地域に活気が出てきます。しかしながら、そうした人たちがご自身の事業のことばかりで、地域に全くの無関心では、丹波篠山の地域社会、つまりは豊かな自然環境や特産物、景観などを守ることはできません（ここではそうした人たちを便宜上“人材”と表現します）。その地域社会で生活をしているというだけでなく、地域社会

としっかりかかわって、丹波篠山の魅力を高める“人財”になっていただく必要があります。先に述べた起業・継業の学びを提供する場などにおいて、しっかりと“丹波篠山での暮らし”を伝えるとともに、既に事業を開始された先輩方や地域の方々との交流を通じて、“人財”になっていただく必要があります（シンボル②）。

こうして、丹波篠山に魅力を感じ、集まった人々が地域とつながり、お互いを尊重しながら、それぞれの地域の特徴を活かして地域づくりが進んでいくことで、地域の持続可能性が高まります。こうした地域が増えていくよう、コミュニティの拠点づくりやネットワーク化等、支援していく必要があります。また、丹波篠山の求心力を高めるためには、JR 沿線やインターチェンジのある西の玄関口、2本の国道を通じて京都や大阪北部から人々が訪れる東の玄関口を更に活性化していくとともに、目覚ましく発展するデジタル技術を上手に活用し、生活の利便性を高めていく必要があります（シンボル③）。

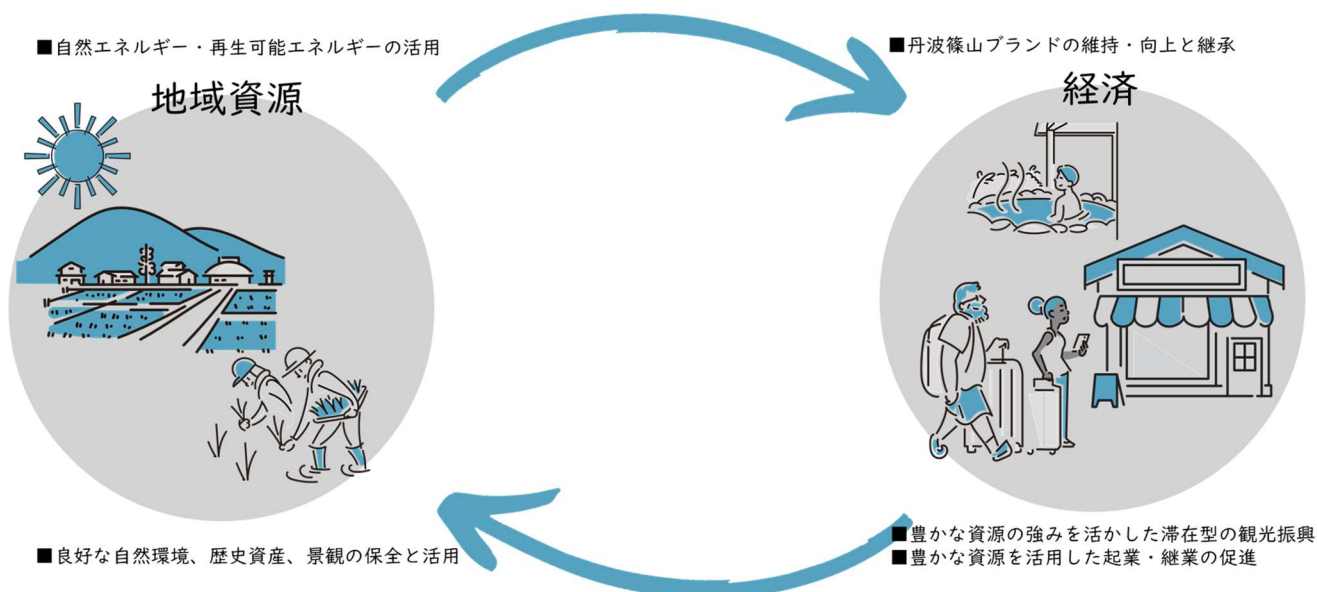
これまでみてきたような取り組みを進めることによって、程度の差こそあれ丹波篠山にかかわる多様な人たちがどんどん増えていくこととなります。こうして集まった丹波篠山に魅力を感じ、丹波篠山で暮らす人々が、それぞれのライフステージにおいて、幸せに暮らすことができるよう取り組んでいくことが必要です（シンボル④）。

以上がシンボルプロジェクトの関連性を示すひとつのストーリーです。次からは、それぞれのシンボルプロジェクトについて、考え方を記載します。シンボルプロジェクトに掲げる主な取り組みは、それぞれの担当がプロジェクトの目標を念頭に実施します。

## ① 「地域資源を活かした循環型経済」プロジェクト

丹波篠山市は、京阪神から約1時間という、通勤・通学に便利な位置にありながら、ゆったりとした空気が流れる環境があります。先人が日々の暮らしの中で育み、守ってきた「なつかしい」と、それらを活用して新たな価値と魅力を創造する「あたらしい」が調和したまちで、暮らしている人、訪れた人がやすらぎを感じることができます。

このまちを持続可能な形で次世代に引き継ぐには、仕事づくりや新しい経済の仕組みづくりが急務で、これまでの取り組みを踏まえて守ってきたものを上手に、かつ持続的に活用して、さらに経済につなげる仕組みをつくります。そして、地域の資源と経済をうまく循環させ、ここに暮らす人たちの幸福（笑顔や活力）を最大にして夢を実現する共生の暮らし方をめざします。



### ●シンボルプロジェクトに関連する主な事業(仮)

生物多様性促進活動補助金

スマートエネルギー導入補助金

薪ストーブ等設置補助金

麒麟の森づくり事業

農都のめぐみ農産物認証制度

多面的機能支払い交付金

でかんしょポイント

道の駅整備事業

起業支援補助金

丹波篠山まちのコンシェルジュ

自伐型林業への支援

デカンショ祭り

黒豆ナイター 等

## ② 「美しい農村のまちづくり人財をはぐくむ」プロジェクト

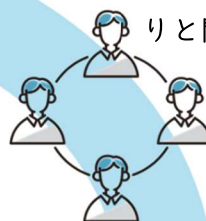
これからの地域のさらなる活力の高まりにとっては、これまでの地域づくりを土台としつつ、新たな人たちの活動が大切な役割を担います。これまでのまちづくり協議会や自治会などの地縁組織の活動はもとより、共通の活動テーマや課題を掲げる市民有志の集まり、NPO、企業、グループなどの団体、また、地域おこし協力隊やイノベーションラボ卒業生、市外在住の学生や都市部の住民という関係人口、UIJ ターンなどの個人の活動が考えられます。

このように様々な立場の誰にも「活躍の舞台」が用意されていることで、挑戦しやすい寛容な雰囲気醸成、それを応援するような土壌をつくり、地域はさらさらににぎわい、活力が高まります。未来に向けた担い手を地域ぐるみで育みます。

### ■様々な主体の挑戦を支援



### ■多様なつながりづくりと関係の深化



### ■あなたの未来、まちの未来を語る仕組み

### ■新たな実践活動の促進と展開支援



### ■話し合いと学び、協働のプラットフォームづくり



### ●シンボルプロジェクトに関連する主な事業(仮)

地域おこし協力隊

市民活動助成金

丹波篠山暮らし案内所

空き家バンク

篠山イノベーターズスクール

大学等連携事業

丹波篠山 ABC マラソン

丹波篠山国際博

おでかけ市長室

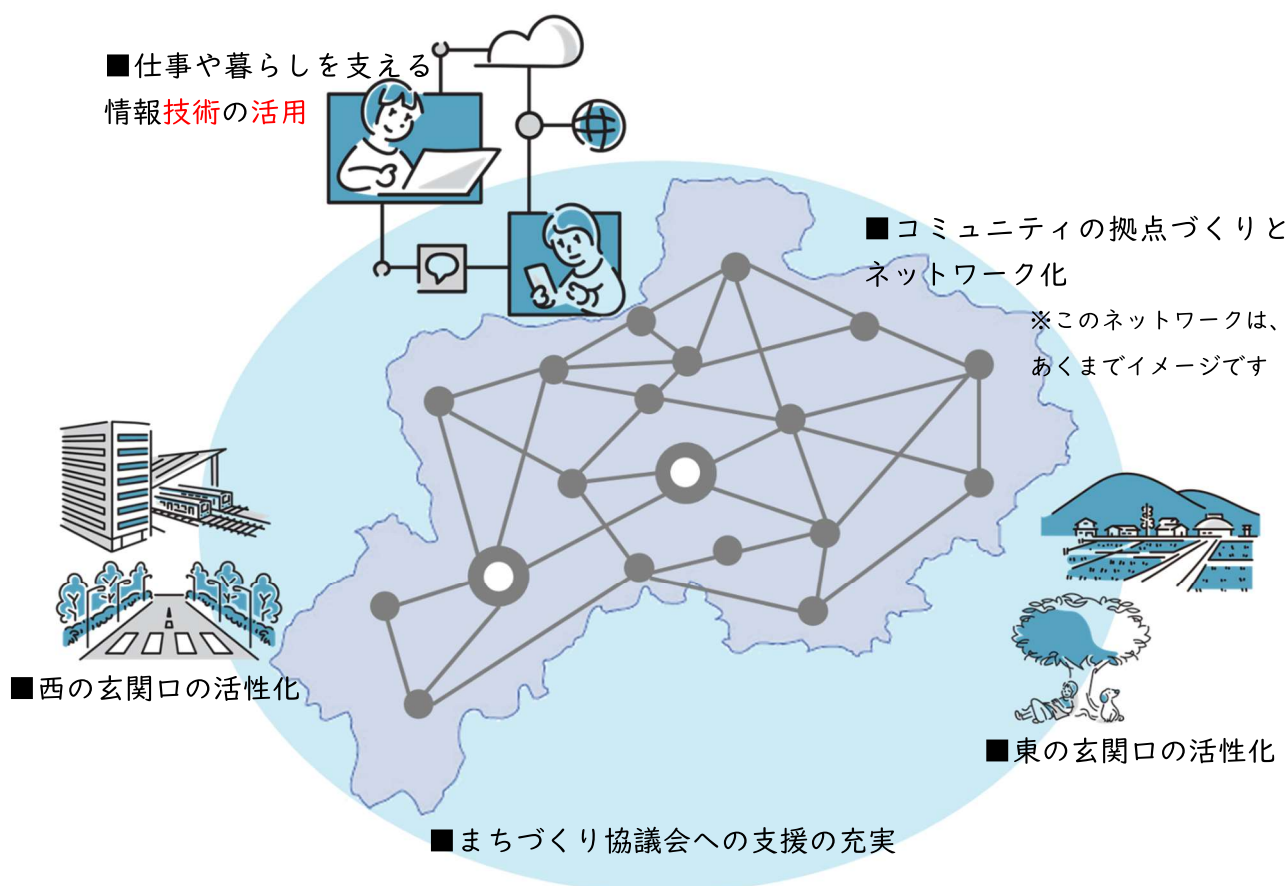
ふるさと一番会議

地域サポート職員制度 等

### ③「美しい農村を支える基盤をつくる」プロジェクト

丹波篠山市の市域は広く、城下町や市街地、農村地域中心の地域など、様々な特徴をもった地域があります。それぞれの地域でコミュニティが形成され、特性に応じた地域づくりがなされてきました。しかし、地域を取り巻く環境が変化し、新たな課題が生じています。まちづくり地区の範囲だけをコミュニティや生活圏域とすることが困難になった今、隣接する地域や市外の団体等とのネットワークを結び、圏域を広げるなど変化に順応する必要があります。

また、市内の人口は、開発が進んだ市西部に人口が集中していますが、市東部には歴史的なまちなみや豊かな自然が広がり、田園回帰志向の人たちに選ばれており、活性化が期待されます。さらに他の地域でもそれぞれの特徴を活かしたバランスの良いまちづくりを進めます。



#### ●シンボルプロジェクトに関連する主な事業(仮)

まちづくり協議会

防犯カメラ設置費補助金

いのちを守る防災マップづくり支援事業

高齢運転者交通事故防止事業

災害時ケアプラン作成事業

安定ヨウ素剤配布事業

道路・舗装維持管理方針に基づく舗装事業

橋梁長寿命化修繕計画に基づく補修事業

ささやまの川・水路づくり指針に基づく

川・水路づくり事業

デマンド型公共交通

生ごみ処理機購入助成

無電柱化事業

丹波篠山の家

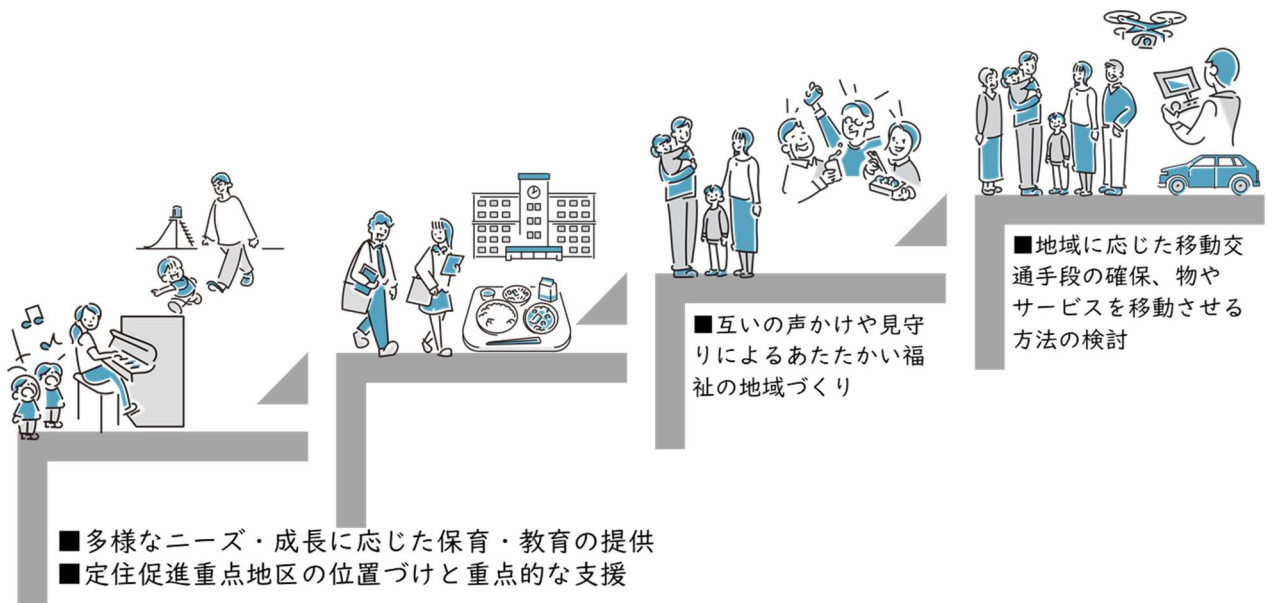
JR 篠山口駅周辺整備・活性化事業

修景助成事業 等

#### ④「美しい農村としての暮らしを守る」プロジェクト

“安心して暮らす”ということは、ただ単に“生活する”というだけでなく、“あたたかいつながりの中で希望をもって暮らしていける”ということです。そのためには、コミュニティの維持はもとより、その前提として、福祉や人権、防災・防犯、子育てや教育環境など、生活するうえで身近な環境が整っていることが必要で、自治会やまちづくり協議会、さらにここに生きる一人一人が互いに助け合ってはじめて維持されます。

たとえ人口が減少しても、子どもから若者、高齢者まで誰もが安心して暮らせる地域を維持していけるよう、ここで暮らす人も出身者や応援する人たちも、もちろん若い人も、みんなで私たちの日々の営みや安心の暮らし、そして地域を未来につなぐ取り組みを続けます。



■健康意識の向上、スポーツや趣味を通じた心身の健康づくり（※生涯を通じた）

#### ●シンボルプロジェクトに関連する主な事業(仮)

防災マップ

ふくし総合相談窓口

重層的支援体制整備事業

障がい者相談窓口

あいさつ運動

住民学習

My 助産師制度

生活困窮者自立相談支援事業

高齢者等買い物支援

赤ちゃんの駅

おいでよささっ子遊具設置支援事業

中学校部活動支援

子どもの居場所づくり推進事業 等

### 第3章 計画の全体像

#### 1. 体系図

基本構想で定めたまちづくりの基本目標（施策の大綱）を基に、まちづくりを進める基本計画の施策体系を示します。6つの基本目標のもとに、中目標と小目標を設定します。

基本目標	中目標	小目標	主な分野
1) 市民が主役で暮らしの質を高めるまちづくり 【暮らし・人】			
	①市民が主体でつくるまち		
		1. みんなが自分を活かせる地域をめざす	コミュニティ
		2. 多様な人材と交流でまちをつくる	地域連携、関係人口
	②安全で暮らしの環境が整ったまち		
		1. 防災力を高め、安全なまちをつくる	防災
		2. 地域と共に安心安全の暮らしをつくる	安心安全
	③生活の基盤が整ったまち		
		1. 道路、河川、市営住宅、公園などの適正な維持管理を行う	道路、河川など
		2. 持続的で安定した上下水道事業を提供する	上下水道
		3. 最適な交通網を整備する	交通網
2) すべての人が尊重され、いきいきと暮らせるまちづくり 【福祉・健康・教育】			
	①あたたかい心があふれるまち		
		1. 安心して受けられる医療と福祉を充実させる	地域医療
		2. 高齢者が自分らしくいきいきと暮らす	高齢者福祉
		3. 障がいのある人が地域でいきいきと暮らす	障がい福祉
		4. 人権を尊重したあたたかいまちをつくる	人権尊重
	②健康にいきいきと暮らせるまち		
		1. 健康でふれあいと笑顔があふれるまちをめざす	健康増進
		2. 食育で人を育み、まちをつくる	食育
		3. 社会保障制度と権利擁護で生活を守る	社会保障、権利擁護
	③子育て・子育ての環境が整ったまち		
		1. 子どもの心身の健全な育ちを支援する	子育て
		2. 多様なニーズに応じた教育・保育を提供する	保育・幼児教育
	④子どもから大人まで学び続けられるまち		
		1. 学校教育、学習環境を充実させる	学校教育、学習環境
		2. 郷土を愛し誇りに思う人材を育成する	ふるさと教育
		3. 子どもの学びを支える環境をつくる	社会教育
		4. 人生100年時代を豊かに生きる学びを推進する	生涯学習
		5. スポーツを楽しむ環境をつくる	生涯スポーツ

基本 目標	中目標	小目標	主な分野
3) 地域に根ざした産業とうるおいのあるまちづくり 【農都創造】			
	①資源を活かした持続可能なまち		
	1. 環境を守る、まちづくりに活かす		環境教育、自然環境等
	2. ごみの減量化、再資源化を推進する		廃棄物
	②農業を磨き、つなぐまち		
	1. 魅力ある農業を育てる		農業振興、担い手育成
	2. 農地と農村環境を守り未来に継承する		農地保全
	③観光資源を活かしてうるおうまち		
	1. 丹波篠山観光で地域のうるおいを高める		観光振興、交流人口
	2. 外国人観光客のおもてなし体制を整える		外国人観光客
	④地域に根ざした商いでにぎわいをつくるまち		
	1. 元気な商いで地域のにぎわいを興す		商工振興、起業支援
	2. 企業振興と誘致で雇用を生み出す		企業振興・企業誘致
4) 良好な景観や伝統文化を大切に継承し、活用するまちづくり【景観・歴史・文化】			
	①良好な景観と調和した空間のあるまち		
	1. 良好な景観を保全継承し、体感・享受するまちをつくる		景観形成
	2. 土地利用を継承し、賑わいのある空間を創造する		土地利用・都市計画
	②伝統を継承し活かすまち		
	1. 伝統文化をまちづくりに活かす		伝統文化
	③文化芸術に気軽に親しめるまち		
	1. 文化・芸術を振興し発信する		芸術文化
5) 市民と行政が手をたずさえて取り組むまちづくり 【行財政運営】			
	①ほしい情報が双方向につながるまち		
	1. 市民の声を聴き、情報を共有する		情報公開、意見聴取
	②効果的・効率的な行政サービスを提供できるまち		
	1. 効果的・効率的な行政サービスを提供する		財政・公共施設
	2. もっと信頼される市役所、市職員をめざす		市役所・市職員
6) 丹波篠山ブランドを創り、活かすまちづくり 【ブランド創造】			
	①ブランドを創造し、磨き上げるまち		
	1. 日本遺産、創造都市をまちづくりに活かす		日本遺産、創造都市
	2. 丹波篠山の宝石（地域資源）を日本の宝石に育てる		ブランド創造
	②ブランドの情報に触れられるまち		
	1. 丹波篠山ブランドの情報を効果的に発信する		ブランド情報共有・発信

## 2. 小目標ごとの基本計画の見方

基本目標 1～6) タイトル

①～④中目標タイトル

### 1～5. 小目標タイトル

#### この小目標でめざすこと

この小目標の分野においてめざすことを記載します。  
個別計画の目標とそごがないようにします。

【成果指標】 ※目標年度：2030 年度

成果指標とは、取り組みによって、成果（地域や住民生活の質の改善、地域がどうなるのか）はどの程度か、を表す数値目標のことです。

【この小目標が該当するシンボルプロジェクト】

この小目標の分野が、シンボルプロジェクトのいずれに該当するか、関係性を明らかにするため、ここに表示します。

#### 現状と課題（いま求められていること）

丹波篠山市における分野ごとの現状の把握と課題を整理します。

#### 施策の展開の方向

現状と課題を受けて、これから進むべき方向性をまとめます。

#### 主要な取り組みの概要

（市民・事業者に期待する役割）

行政の役割ばかりでなく、この小目標の分野で市民や事業者に期待する役割を記載します。

（市民・事業者と行政の協働の役割）

市民等や行政がそれぞれに行うことばかりでなく、協働することを記載します。

（行政の役割）

施策の展開の方向に基づいて、行政が取り組む施策の概要をまとめます。

#### 分野別計画

この小目標の分野に対応する個別計画がある、または策定する場合は個別計画の名称を明示します。

（関連する計画等）

関連する個別計画がある場合は、名称を記載します。

SDGs  
アイコン

SDGs  
ア

この小目標の分野が該当すると想定する SDGs の目標を表すマークを添付します。